



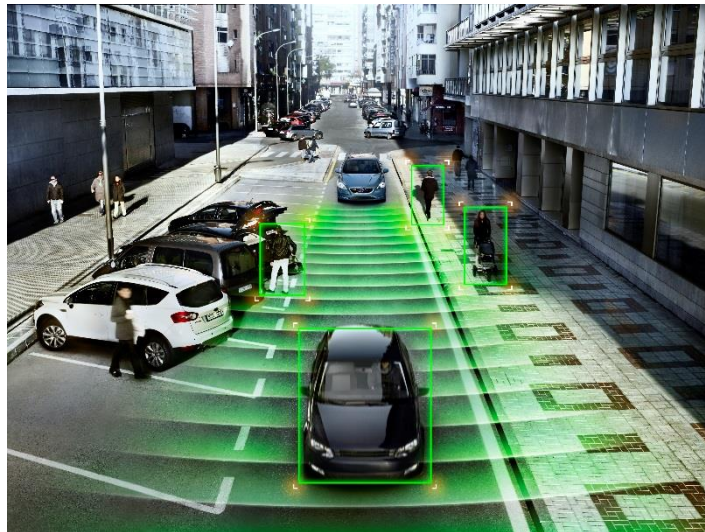
## VOLVO CAR JAPAN

Press Release

2016年10月11日

### ボルボの自動ブレーキシステムの有効性が証明される 非搭載車に比べ、搭載車の事故件数が69.0%減少

ボルボ・カー・ジャパン株式会社(代表取締役社長:木村隆之、本社:東京都港区)は、ITARDA(公益社団法人 交通事故総合分析センター)が保有する情報を基に、2009年から2015年に日本国内で新規登録されたボルボ車で、オートブレーキ・システム搭載車と非搭載車の事故発生件数を比較調査しました。その結果、オートブレーキ・システム搭載車は、非搭載車に比べ、事故件数が69.0%少ないことが判明しました。



今回の調査は、2009年から2015年に日本国内で新規登録されたオートブレーキ・システムを搭載するボルボ車60,585台と、同システム非搭載のボルボ車18,823台を対象とし、ITARDAが保有するデータを基に、ボルボ・カー・ジャパンが独自に算出したものです。その結果、オートブレーキ・システム搭載車は非搭載車に比べ、対人事故件数は58.6%少なく、追突事故件数は76.5%少なく、全ての事故発生件数において69.0%少なくなっています。

ボルボは2009年、国内で初めて、完全停止するオートブレーキをXC60に標準装備して以来、歩行者検知機能、サイクリスト検知機能の導入、また2016年1月には右折時対向車検知機能の導入と、段階的に機能を向上させてまいりました。また、2014年にはオートブレーキを含む10種類以上の先進安全機能、「インテリセーフ」の全車種・全グレードへの標準装備化を実現しています。ボルボは「2020年までに、新しいボルボ車に乗車中の事故における死者・重傷者をゼロにする」という安全目標「Vision2020」を掲げ、安全技術の開発に取り組んでおり、日本においても着実な歩みをすすめています。

■事故件数比較表

単位：台

2009年-2015年 ボルボ車 (商用車除く)	新車登録 台数	事故発生 総件数	対人事故	対車両事故・その他	
					追突事故 (内数)
オートブレーキ搭載車	60,585	885	64	821	318
1万台あたり事故件数 (a)		146	11	136	52
オートブレーキ非搭載車	18,823	888	48	840	420
1万台あたり事故件数 (b)		472	26	446	223

(a)-(b)／(b)	-69.0%	-58.6%	-69.6%	-76.5%
-------------	--------	--------	--------	--------

※1万台あたり事故件数は小数点以下を四捨五入

■参考：ボルボの日本におけるオートブレーキ・システム導入の歩み

2009年	完全停止するオートブレーキ・システム「シティ・セーフティ(※赤外線レーザー方式)」をXC60に導入。 (前方走行車両を検知、作動速度域4-30km/hまで)
2011年	「歩行者検知機能付追突回避・軽減フルオートブレーキ(※ミリ波レーダー、デジタルカメラ方式)」をS60/V60に導入。歩行者検知を可能に。 以降、XC60/V70/XC70/S80に順次採用。
	V70/XC70/S80に「シティ・セーフティ」を標準装備化
2013年	サイクリスト検知機能追加
	「シティ・セーフティ」の作動速度域を50km/hに拡大
	「歩行者・サイクリスト検知機能付追突回避・軽減フルオートブレーキ」をV40シリーズに標準装備化
2014年	「歩行者・サイクリスト検知機能付追突回避・軽減フルオートブレーキ(※ミリ波レーダー、デジタルカメラ、赤外線レーザー方式)」を全モデル・全グレードに標準装備化完了 (10種類以上の先進安全・運転支援機能「インテリセーフ」アイテムとして)

■ITARDA (Institute for Traffic Accident Research and Data Analysis) について

1992年設立の道路交通法108条13第1項「交通事故調査分析センター」指定公益財団法人。交通事故と人間、道路交通環境及び車両に関する総合的な調査研究を通じて、交通事故の防止と交通事故による被害の軽減を図ることにより、安全、円滑かつ秩序ある交通社会の実現に寄与することを目的に活動。